

平林金属整備

# 洗濯機に特化 再資源化ライン

## 精度、作業効率アップ

リサイクル業の平林金属（岡山市北区下中野）は、リサイクルファーム御津第二工場（同御津高津）に、廃棄された洗濯機の再資源

化ラインを整備した。隣接する第一工場からラインを移管し、資源選別の精度や作業効率を高めた。

鉄骨平屋約1千平方メートルの新棟を建設した。洗濯機を破碎するシュレッダーのほか、複数の金属や樹脂が交ざった破碎くずから鉄、銅、ポリプロピレンといった有価物を選別する装置を導入。磁力や風力、振動などを利用しており、高精度な選別が可能という。

既存棟には、洗濯機を破碎する前に内蔵モーターやコンデンサーなどを取り出す前処理ラインを設け、新

棟と自動搬送装置で連結した。投資額は約10億円。7月上旬に稼働した。

同社は、家庭リサイクル法により家電4品目（洗濯機、冷蔵庫、エアコン、テレビ）の回収が義務付けられている電機メーカーから、その再資

源化を受託している。

従来は4品目とも第一工場で処理していたが、洗濯機は前処理、破碎、資源選別など各工程のラインが分散。冷蔵庫と同じシュレッダーを使っていたため、似た物質が交ざってしまう恐れがあった。洗濯機に特化したラインを設けたことで従業員の作業効率は向上。似た物質の混入リスクもなくなったという。

平林金属は「リサイクル技術をさらに磨き、資源循環型社会の実現に貢献していきたい」としている。

（伊東圭一）

平林金属が整備した洗濯機の再資源化ライン



2023年7月21日山陽新聞朝刊